しおんだより VOL.53

当院のイメージカラーのラッピングが施された訪問診療カーです。町で見かけられた方もいらっしゃるかも知れませんね。

当院へご自宅等への訪問診療も行っています

「住み慣れた町でその人らしく過ごす」という地域包括ケアを具現化するには、自宅に医師や看護師などの医療職がご自宅や介護施設におうかがいすることが必要です。

「在宅医療」と呼ばれる分野ですが、当院も、大阪市在宅医療連携拠点事業の「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」として登録しています。

メインは、地域の開業医の先生方が在宅で診療されている方が体調を崩された時や、病状が悪化された時に入院を応需する役割ですが、それとともに、当院からも在宅で療養されている方への訪問診療を続けています。

私自身も、当院に赴任する10年前までの10年間は、いくつかの診療所やクリニックで、介護施設や個人宅への訪問診療を行っていましたので、当院でも、入院や外来だけでなく、訪問診療も継続して行っています。

なかには、10年近く担当させていただいている方も多く、気がつくと100歳を超えられていた、という患者さんもいらっしゃいます。これからも、在宅医療を色んな面で支える病院運営を心がけていきたいと思います。

ちょっとした心遣いがうれしいですね

先日、病棟に行った時に、カウンターにかわいらしいお雛さんが飾られていましたので、つい写真を撮ってしまいました。

先日まで病棟のカウンターにかわいらしいお雛さんが、そっと飾られていました。

感染管理や安全対策の観点からは、できるだけシンプルにしておくことを心がけるのですが、ともすれば、殺風景になりがちです。

入院というのは、ご本人はもとより、ご家族やお知り合いの方にとってもストレスフルなものになります。

また、当院には、地域量に於ける役割として、人生の終末期を過ごされる方もいらっしゃいますので、私たちにも、日々、気を引き締めて現場で活動しています。にこやかなお雛さんを診ていると、そんなストレスや緊張がふっと緩むように感じました。

学会で発表することの意味は大きい！

私が若い頃、医局の先輩や上司に口を酸っぱくして言われたのは「臨床・研究・教育」の３つをバランス良くやるように、ということでした。

先日、横浜で開かれてた学会で座長と演者を務めました。久しぶりで緊張しましたが、とても勉強になりました。

私は外科でしたので、「手術はできて当たり前。その中で、テーマを見つけて研究し、新しい知見を獲得しなければ意味が無い。また、自分が教わったことを、後輩や部下に教えて広げていかなければダメだ。」と教わりました。

毎日患者さんの診療に当たっていると、悩むこともありますし、どうしようか思案してしまうこともあります。複数の医師や医療職で知恵を絞って治療に取り組むことで、患者さんが良くなるきっかけが得られ、退院にたどり着く例もあれば、期待に応えられない例があるのも事実です。

そんな事例から学ばせて頂いたことを、広く世に還元し役立てていただける様に、忙しい中ではありますが、少しずつでも学会での発表や論文の執筆には取り組んで行きたいと思います。（文責：狭間研至）

しおんだより　第53号　　発行日：令和7年3月15日
発行人：狭間研至　　発行元：医療法人嘉健会　思温病院
〒557-0034 大阪市西成区松1–1–31　電話06-6657-3711　HP: www.shion-hp.or.jp